

# 日常に溶け込む 展示会

バーチャルで加速 ①

オンラインで開催する「バーチャル展示会」が長期化の様相を見せている。1か月にわたって週単位でテーマを変え、セミナーやイベントを開いて集客する例もある。来場者は1か月間届くイベントの案内に応じて、ブースを見て回るか決める。参加方法はパソコンやスマートフォン、出展社ページをどこぞ。従来の展示会とは一線を画す体験になる。出張社情報を集める。移動中や会議と会議の間など、隙間時間に会員制交流サイト(SNS)感覚で情報収集できるのが利点だ。

## タイムライン式

押見社長は「タイムラインは個人に体験を伝える仕組みとして、よくつくづくする挑戦は久しぶり」とCRIは「ミドルウェアの押見正雄社長は目を輝かせ、展示会に参加するオンライン展示会プラットフォームフォーム「CRI DXE x p o」を提供する。写真共有アプリ「インスタグラム」の視点でオンライン展

# SNS感覚隙間時間に参加

2秒で伝える  
出展社にとっては新しい挑戦になる。タイムラインに表示される動画や写真は一度にユーザーはどの画面をスクロールするため、冒頭2秒でメッセージを伝えること

が重要になる。動画の冒頭で来場者の興味を掴んで、残りの数十秒や1分程度のビデオを見てもらうためだ。例えば、ゆるみ防止ネジを出展する場合、ゆるみ防止のメカニズムを2秒で伝えることが難しい。だが「これでゆるまないかは2秒で伝えられる。この冒頭2秒で伝えられる。こうつかんで、残りの数十秒や1分程度のビデオを見てもらうためだ。例えば、ゆるみ防止ネジを出展する場合、ゆるみ防止のメカニズムを2秒で伝えることが難しい。だが「これでゆるまないかは2



## 動画制作支援

CRI DXE x p oは組込みシステム技術協会が主催する「E

オンライン展示会プラットフォーム「CRI DXE x p o」

者を集める必要がある。幅朝徳部長は「パレル分野での成功例を挙げる。」

「スタッフが月170本の動画をインスタにあげ、そこにファンがついて商品が売れている。オンライン展示会も各社のCTO（最高技術責任者）視点のタイムラインを共有するなど見せ方は多彩だ」（幅部長）。

制作を支援する。押見社長は「制作支援に踏み込むのは経営チャレンジだ」と説明する。展示会の成功は運営会社にかかっている。1か月間イベントを投入し続け、何度も来場しました」